

活動テーマ

農業と地域資源を生かしたグリーンツーリズムの試み

神川町（渡瀬、下阿久原、上阿久原、矢納）

本庄市（全域） 十文字学園女子大学

1 活動目的

神川、本庄における地域資源について知り、自ら体験しながらグリーンツーリズムミニツアーのプランを作成する

2 活動地域の現状

【神川町（渡瀬、下阿久原、上阿久原、矢納）】

神川町南部（旧神泉村）は秩父山系からなる山間部であり、人口は1000人強、高齢者世帯が70%を超える地区もあり、「過疎地域」の指定を受けている。一方、国の天然記念物に指定されている「三波石峡」、県立上武自然公園や「城峯公園」「金鑽神社」などの観光資源が豊富であり、有機農業が盛んで、「ヤマキ醸造」のような企業もある。しかしながら、これらの観光地のうち1箇所のみ立ち寄り寄り傾向があるなど町全体としての観光地の連携が十分に図られていない。

【本庄市】

児玉地域は、南西部は山間地、中央部は丘陵地帯、北部は平坦な地形で、山林と田園地帯が広がる緑豊かな自然環境に恵まれている。高齢化率は約26%で県平均を上回っている。高窓の里、さぎえ堂などの観光資源、多くのウォーキングコースなどが点在しており、本庄地区もふくめ、歴史的建造物や伝統的な祭りがある。また「本庄なす」に代表されるような豊富な農作物がある。

3 活動内容

令和3年度は「子どもたちとともに地域の良さを発見し、広く発信する」を活動目標とし、「親子で行く本庄・神泉ミニツアー」を中心に企画を立てていたが、新型コロナウイルスの影響により、大きく計画を変更せざるを得なかった。結果的にリモートの活動のみとなったが、リモートで何ができるかを熟慮したうえで、多様な手法を活用することができた。具体的には5回のリモート活動を行った。

月日	主な内容	手法
2021/11/15	神泉について学ぼう	神泉の石井さんからリモート講義を受講する。
2021/12/16	ふるさとじまんカードゲーム ①（カードづくりについて） 3, 4年生対象	小学生を対象として学生がリモート講義を行う。
2021/12/23	ふるさとじまんカードゲーム ②（ゲーム実践） 3, 4年生対象	小学生と学生のリモートによるカードゲームの実践。

2022/02/08	裸祭りについての発表 3, 4年生対象	神川と新座の裸祭りについて、小学生と学生が互いに調べたことを発表しあう。
2022/02/10	きつねのお面の絵付け 1, 2年生対象 (リモート授業を録画して利用することにより、他の学年の児童も後ほど絵付けを実施予定)	新座の裸まつりにも出てきた「狐のお面」に、リモートで指導を受けながら、小学生と学生が絵付を行う。

ふるさとじまんカードゲーム

神泉と新座の自慢カードを6枚ずつ制作し、6組の対戦で競うリモートゲーム。接戦の末引き分けになった。

2回戦

だいじん山



- ・だいじん山の新緑がきれいです。
- ・だいじん山は、秋になると紅葉がきれいです。
- ・ハイキングも、できます。

3点

6回戦

カタクリの里



- ・きれいなカタクリの花が見れて癒やされます!!
- ・カタクリとだけ板が一緒に見れておススメです!
- ・カタクリの里は自然がいっぱい!!
- ・カタクリをもとにしたキャラクターカタリン

2019年 1月 誕生(2才)

8点



結果発表

1回戦 ヲウキリン VS パニーノガーデン

2回戦 にんじんうどん VS だいじん山

3回戦 平林寺 VS 松田マヨネーズ

4回戦 やまぎ醸造 VS ぜんや

5回戦 埼玉国際ゴルフ倶楽部 VS トランポランド

6回戦 かたくりの里 VS 野火止用水





3回戦

松田マヨネーズ



- ・1つ1つの材料が自然にちかい物を使っている。(5つうちの3つにある物)
- ・美味しくて、よく売れる。
- ・マヨネーズをつかってる人が熱心で元気な感じがする。

15点

チーム	1回戦	2回戦	3回戦	4回戦	5回戦	6回戦	点数
神泉小学校	40	3	15	7	5	30	4
十文字	35	25	15	7	8	10	4



「裸祭り」について調べよう

神泉、有氏神社の「盤台祭り」と新座の「大和田氷川神社裸みこし」について互いに調べてリモートで発表した。子どもたちは両者を比較して服装や掛け声の違い、盤台まつりのご利益の大きさなどに気づき、感想にまとめた。

有氏神社 盤台祭り



神泉小学校
3・4年生

何年続いているのか

308年

1713年(秋) 2021年



徳川家継 (とくがわ いえつぐ)

保存会ができた理由

- 受けつぐひとがいなくなった。
- 地域の大切な祭りがなくなってほしくなかった。
- 続けていくために、氏子ではない人も参加してもいいようにした。

盤台祭りのじゅんぴ

- お赤飯をたきます。
- ばん台にお赤飯を入れます。
- 今年は神泉小学校の5、6年生が育てたさざげをお赤飯に入れてくれました！



じゅんぴは道のオアシス神泉でします。

大和田氷川神社裸みこし



十文字学園女子大学
嵐野ゼミ

大和田氷川神社の夏祭り

・大和田はやし

たいこや笛を演奏(えんそう)したり、おかめ、ひょっとこ、狐(きつね)、獅子(しし)、などの面をつけておどり、まつりをもりあげる



きつねのお面の絵つけをしよう

ミニツアーでの活動として予定していた、大和田氷川神社の祭りでも出てきた「狐のお面」の絵付けを、1、2年生の授業で実施した。当日は大雪で午後の予定を急遽午前に変更したため、学生は自宅からの参加となった。





4 成果

① 子どもを通して地域を再発見

学生は一度も現地に行くことなく活動が終わってしまったが、子どもたちを通して、神泉の魅力を知ることができたことは大きな収穫であった。例えば有機マヨネーズの元祖として有名な「松田マヨネーズ」が神泉で作られていることは知っていたが、今回マヨネーズを製造している家の子供が神泉小学校に通っており、マヨネーズを紹介したことで、地元で作られているのだということを再認識することができた。子どもとの交流を通して、新鮮な目で神泉を見ることができ、新たな魅力を発見することができた。

② 伝統をつないでいくことの大切さを共に学ぶ

神泉「盤台まつり」は非常にユニークなお祭りで、赤飯を入れた盤台を担いでいくのも楽しいし、また疲れると赤飯をまき散らすというのも、とても珍しい風習である。子どもたちは発表の中で、「神泉には田んぼがなく、赤飯はとても貴重なものだから、それをまくのでご利益がある」と述べていた。「まき散らす」というのは、神様にささげていることなのだと理解すると、祭りの意味も理解できた。今年は子どもたちが育てた「ささげ豆」が赤飯に使われたということで、300年以上続いている伝統的な祭りを絶やすことなく継承していくことを、体験を通して実感することの大切さを知ることができた。また、地域の未来をつなぐ子どもたちが、ふるさとについて自ら調べて発表したり、新座と比較したりする中で、ふるさとのすばらしさや伝統をつないでいくことの大切さを実感してくれたことが大きな収穫であった。

5 課題

以上のように、新型コロナウイルスに翻弄された1年であった、神泉小学校の子どもたちや先生たちの力に助けられ、私たちも専門性を生かしながら楽しく活動できたことは大変ありがたいことであった。一方で現地を直接見ることができず、活動や現地の方との交流も限定されたことから、本来の目的である魅力の発信ができなかった点が課題として残った。

6 次年度以降の計画

①親子ミニツアーの開催

今年度開催できなかった「親子ミニツアー」を開催する。事前のリモート学習会や、学生による畑での野菜作り、ツアーにおける活動内容の企画などを学生中心で進める。

②子ども支援活動

2年連続でできなかった運動会支援に加えて、子どもを対象とした自然体験活動や交流授業など、小学校教員養成課程であるゼミの特徴を生かした活動を展開する。

③農産物を生かしたレシピ開発や食事会の開催

有機味噌やルバーブ、野菜などを生かしたレシピを開発し、試食会、料理交流会を実施する。